

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー 一月信

No.5
2008
11

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510 2008-2009 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区

2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F

TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com

ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



RI国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— ロータリー財団について考えてみよう
- 3 ————— RI第2510地区ロータリー財団国際親善奨学生の現状
- 4 ————— ロータリー財団学友委員会活動について
- 5 ————— ロータリー財団月間にあたり
- 6 ————— 地区補助金について
- 7 ————— 青少年交換事業
新年度生歓迎会・帰国報告会
- 8 ————— 私の“Rotary Notes”
ロータリーの哲学者
- 10 ————— ガバナー補佐レポート
クラブ訪問が自分の勉強に
- 11 ————— 札幌大通公園ロータリークラブから、「ご協力有難うございました」
- 12 ————— 地区委員会報告
- 13 ————— ガバナー公式訪問
- 16 ————— 新入会員のご紹介
札幌東RC・札幌西北RC合同例会 井上 康生氏を迎えて
- 17 ————— ロータリー財団寄付
米山記念奨学会寄付
文庫通信
- 18 ————— 2009国際ロータリー年次大会
バーミンガム大会旅行案のご案内
- 19 ————— 出席率・会員数
- 20 ————— 地区カレンダー（11月・12月）
- 21 ————— 例会曜日・例会時間・例会場の変更等について



ガバナーメッセージ

地区大会へのご参加ありがとうございました

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

■ ■ ■
たくさんのロータリアン、ロータリー家族のみなさまに参加いただき、地区大会が成功裏に終わりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

過去に地区大会ホストの経験はありましたが、環境の変化や時代の流れのためか、手間取ることも多々ありました。それでもみなさまに楽しんでいただこうと、ホスト役の札幌西ロータリークラブのみなさんや大会事務局、ガバナー事務所スタッフとで準備万端、臨みました。行き届かない点がございましたら、ロータリーの好意と友情に免じてお赦しください。

ところでこの「ロータリーの好意と友情に免じて」という文言。以前はよく聞かれました。特に地区大会や地区協議会などです。規模の大きな集まりだから多用されたのか、クラブ例会ではあまり聞かれないような気がします。とりわけ使われたのが、開会が予定より遅れたときなどです。「ロータリーは時間厳守」とは私が入会当時、よく先輩会員に言われたものです。

ある会合では、開会がわずか数分遅れただけで、司会者から「ロータリーの一」との謝罪の言葉がありました。スケジュールが立て込んでいるわけでもないのに。もしかしたらその方は、「ロータリーの一」を言いたかっただけなのかも知れません。今なら、そんな想像もできます。

単なる「予定時刻を過ぎまして申し訳ございません」ではなく、ロータリアン同士だからこそ許し合えること、その慣用句としての「ロータリーの好意と友情に免じて」をあえて口にしてみたかっただけではないでしょうか。そう考えると、このフレーズはただの詫言文句と同時に、これから始まるロータリアンの集まりを再確認し、ロータリー精神を喚起する、点鐘にも相当する口上なのかもしれません。

今年度、ガバナーとしてみなさんに提案したことのひとつに『「四つのテスト」の唱和』があります。「好意と友情」は、まさに「四つのテスト」の一節。好意と友情を深めるために集った会合で、改めてそれを口にした当時の司会者は、粹でした。

さて先月は米山月間でした。旧聞に属するようで恐縮ですが、少し米山月間にちなんだお話を。

私の会社には、米山学友が勤務しています。アフガニスタン出身の彼は、北大大学院で複雑系を研究していました。9.11のアメリカ同時多発テロ事件で世界中から注目されることになりましたが、それ以前の同国の動静はあまり知られていませんでした。

私は海外旅行が好きで、それもできるだけ観光客が行かないような地域、行きたがらないような国、行ったら怒られるかもしれないエリアに興味があります。北朝鮮への入国は真っ先に済ませ、次はアフガニスタンか、と考えていたところに彼と出会いました。文献で知り得た情報を彼に投げかけて、その信憑性を確認することを私は楽しみました。

一方の彼は来日した当時、予想以上に日本人がアフガニスタンを知らないことに困惑したそうです。9.11まではマスコミの注目度も低く、母国が「忘れられた国」になったような気がして不安だったといえます。そこに私のような興味本位な日本人が現れたのも何かの縁です。

同時に彼は、札幌はまなすロータリークラブというお世話クラブにも恵まれました。同クラブの方々からはよく「困ったことがあったら言いなさい」と声をかけられたそうです。これは奇しくも私の口癖でもありまして、同じロータリアンとはいえ別の場面から同じ言葉で励まされたことで、孤独感が解消されたと後に語っていました。

彼が博士号を取得する頃には、母国の政情はすっかり悪化し、帰るに帰れない状態でした。奥さんを母国から呼び寄せていた彼は、慣れ親しんだ札幌での就職を希望。当社は地理情報システムを扱っている関係でIT技術者を欲していたところなので、アフガニスタン情勢が落ち着くまで手伝ってもらうことになりました。

同国では今年8月にも日本人NGO職員が拉致・殺害されるなど、まだまだ不安定な様子です。手放すには惜しいのですが、彼が帰国できるくらいに彼の国が復興することを祈っております。

寄付による奨学金支援、カウンセラーやお世話クラブとして奨学生の相談に乗ったりと、様々な関わり方があります。加えて、学友を社員として迎え、一緒に働くというのもまた一興です。

ロータリー財団について考えてみよう

地区ロータリー財団委員長 **岩城 秀晴**
(札幌南RC・PG)

ロータリー財団は、ロータリーの国際的な人道的奉仕を動かすエンジンの役割を担っています。ロータリー財団がなければ、ロータリーのプログラムは存在しなかったでしょう。それは、人道的補助金、国際親善奨学金、GSEもなかったと思われます。11月は年次寄付を推進する月です。そしてロータリー財団がどのような寄付金の使い道をしているのか、これは毎年同じように会員の皆様方をお願いをしているのですが、RI第2510地区としては、

1. 活動方針として、ロータリー財団の基本方針に準じて、財団への認識を高め、ロータリアンとして財団に理解と協力を推進することに致しております。
2. 活動計画としては、
 - ①財団へ1人100ドルとクラブ1,000ドルを寄付する。
 - ②恒久基金、使途指定、そして大口寄付、ポール・ハリス・ソサエティへの協力と推進。
 - ③各種プログラムを積極的に推進する。
 - ④各小委員会：特に地区国際親善奨学金は教育的プログラムで国際理解と世界平和を促進するために1947年に初めて奨学生を送り出しており、当地区からも毎年6名程度の奨学生を出しております。またGSE委員会では、2010年4月には当地区とスウェーデン地区との交換誓約が出来まして実行になるのですが、そのメンバーの募集を行う準備を進めており、チームのリーダーとなられる方には札幌東RCの奥貫一之會員が就任されて進められて行くことになっております。

このように財団のプログラムには教育的プログラムは5つ程ありますが、当地区におけるプログラムは以上が大きなものです。

一方、人道的補助金プログラムは4つありまして、地区補助金、マッチング・グラントがあります。その中の地区補助金プログラムは植樹、車椅子の贈呈、お祭りや行事への協賛、スポーツ大会、コンサート等地域社会に対する奉仕活動に対して補助金を申請して受取ることができます。これには大変難しい要件がありますので申請にあたっては地区補助金委員会にお尋ね下さい。この外にマッチング・グラントにより世界社会奉仕委員会が他国のロータリークラブを援助する場合に、そのプログラムに補助金を申請しますとロータリー財団のプログラム、マッチング・グラントになります。この申請手続きについては、ロータリー財団地域セミナーハンドブックP65をご参照下さい。以上が、寄付金の使い方としてのプログラムの要約です。

さて、愈々それでは寄付については大きく分けて年次寄付と恒久基金寄付があります。2007～08年度の当地区年次寄付は311,997.38ドル(110.06%達成)となっております。1人100ドル以上を目標にしておりますのでご賢察下さい。また、個人、法人とを問わず、教育的プログラムに20万円以上を寄付した場合には優遇措置扱いとなります。

その他寄付には冠名奨学金、冠名奨学金基金、冠名基金がありますが、その寄付の方法についても「財団の友」「遺贈友の会」がありますので、この基本的なパターンをご承知して戴きたく存じます。また、寄付の種類を問わず、年次、使途指定、恒久基金寄付の合計で10,000ドル以上寄付した人は大口寄付者となります。2007年10月現在で世界7,726名、日本では779名です。

以上、ロータリー財団月間にあたりまして大変現実的な算術的な理論の構成でご説明を申し上げましたが、やはり100年前にロータリーの原点であるポール・ハリスの考え方に賛同した者と致しましては「人類が私たちの仕事」であり「夢をかたちに」でありましょう、その目的を達成するためにご精進致しますことをご期待とお願いを申し上げます。

RI第2510地区ロータリー財団 国際親善奨学生の現状

地区国際親善奨学金委員長 菅原 秀二
(札幌大通公園RC)

当地区における国際親善奨学金には、文化研修と呼ばれる3ヵ月または6ヵ月の集中語学研修プログラムと、1学年度またはマルチ・イヤー奨学金という1学年または2年間の主として大学院での勉学を助成するためのプログラムがあります。どの奨学金も、国際理解と世界平和を促進するために、ロータリーの国際親善使節として派遣されるものです。そのために、奨学生は単に資金援助を受けるのみならず、スポンサー地区とホスト地区双方でクラブのカウンセラー（顧問ロータリアン）が任命され、貴重な助言や支援を受けることになります。この点が他の奨学金とは異なる本奨学金の大きな特徴である、ということが出来ます。

さて、当地区では2008-09年度に7名の留学生を派遣することになっており、すでに数名の留学生は出発し、現地で活動を始めています。写真は南アフリカに留学している池見さんのものです。7名の留学生は次のとおりです。佐藤知香子（3ヵ月、インド、札幌はまなす）、池見真由（6ヵ月、ケニヤ、札幌大通公園RC）、伊藤珠代（6ヵ月、ハンガリー、札幌手稲RC）、松橋由佳（6ヵ月、アメリカ、札幌モーニングRC）、佐藤好恵（6ヵ月、カナダ、札幌東RC）、庄美紗恵（6ヵ月、スペイン、北斗RC）、長谷川敬（マルチ・イヤー、フランス、苫小牧RC）。留学生の壮行会は7月5日に盛大に行なわれ、多くのロータリアンの方から出発にあたっての激励の言葉をいただきました。



また、来年度出発する予定の2009-10年度の奨学生候補者も6名決定しており、すでに2回のオリエンテーションを受け、書類はすべて財団本部に提出済みです。あとは本部からの返事を待っているところです。これらの候補者も壮行会でご挨拶する機会を得ていますが、下の写真はこの壮行会の際の写真です。6名の候補者は次のとおりです。櫛引友美子（6ヵ月、カナダ、札幌はまなすRC）、田中栄子（6ヵ月、英国、札幌幌南RC）、西出佳代（1学年度、ルクセンブルク、札幌北RC）、芳住啓輔（マルチ・イヤー、オーストリア、札幌東RC）、三浦順子（マルチ・イヤー、アメリカ、札幌大通公園RC）、田中慎吾（マルチ・イヤー、室蘭北RC）。今年の特徴はマルチ・イヤーの奨学生が多いことでしょうか。スポンサークラブのカウンセラーの方のご支援をお願いします。

最後になりましたが、2010-11年度の奨学生に関しましては、募集要項やポスターを年明けの1月に配布しまして、2009年の2月頃から募集を開始いたします。応募に際しましては当地区のロータリークラブの推薦が必要ですので、各クラブに応募があった場合には、面接などのご対応をよろしくお願いいたします。



ロータリー財団学友委員会活動について

地区財団学友委員長 **高橋 宣充**
(札幌清田RC)

財団学友とは、元ロータリー財団国際親善奨学生、元GSEチーム・メンバーとリーダーで構成されており、日本では女性では緒方貞子氏を始めとして、多数の優秀な学友が活躍しています。学友数は、2007年7月末世界で105,722人、日本で7,410人です。ロータリアンになった学友の数は、世界で17,789人、日本で388人です。

クラブと地区は、ロータリーの活動、特に奉仕活動に、学友を招待するように奨励されています。学友に、クラブや地区での講演をしたり、新しい奨学生の選考や指導を助けたりするように依頼するべきです。また学友は、ロータリークラブの会員候補者としても有望ですし、近年R1定款の制定案により財団学友が条件を満たせば正会員となる資格が認められたことも、これからの会員増加につながることでしょう。

財団学友委員会の活動としましては、学友に対して活動の助言、支援を行うべく第2510地区財団学友会を2001年5月に発足したのを機に活動を連携し行っております。合同委員会の開催、クラブ例会での卓話、学友会ニュースレターの発行（現在まで7号）、地区大会への参加、奨学候補生へのオリエンテーションなどを行います。本年2月2日にはルネッサンスサッポロホテルにおいて『第4回帰国財団学友報告会』を開催し、ロータリアン、学友、派遣候補者など懇親会なども含め64名の参加者とともに、演者の海外留学の貴重な経験談を拝聴しました。ロータリーのプログラムだから安心して海外で勉学に励むことができた事など、改めてこのプログラムの素晴らしさを直接耳にする機会を得ました。

今後も多くの学友と連絡、情報を密にして活性化に努めて参りたいと思います。それぞれのクラブにおかれましても学友との交流を図り、行事にも参加させていただきロータリーの発展にも結びつきますよう、今後とも財団学友会活動へのご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。



学友報告 渡辺多会子さん



報告会風景



白畑学友会会長 挨拶

地区財団学友委員会

委員 山道 祐子（札幌セントラル）
高橋 保史（室蘭北）
斉藤 博司（千歳セントラル）
内山 博（室蘭）
小笠原 肇（札幌大通公園）

地区財団学友会役員

会長 白畑 博信
副会長 梶川 裕史
副会長 鈴木 抄織
幹事長 菅原 桂子（以下10名）
会計 伊藤 和弘
顧問 岡 宏幸
顧問 菅原 秀二



参加者の皆さん

ロータリー財団月間にあたり

地区GSE委員長 岡崎 芳明
(小樽南RC)

GSE（研究グループ交換）プログラムは、ロータリー財団の中の代表的な教育的プログラムの一つであります。しかしGSEという事をロータリアンの方に尋ねると、（ああGSEは外国人の方をクラブで受け入れ、ロータリアンの家にホームステイをさせながら観光させるあれですね……）と言う反応が返ってくる事も珍しくありません。つまりロータリアンの皆様の中にはGSEという言葉は知っていても、実際にどのような活動なのかを御理解頂けている方は案外少ないと思われまます。尋ねてみますとGSEが単なる外国との親睦交換のプログラムと思っている方が多いのには驚いております。

本来（研究グループ交換）という名前からわかります様に、受け入れだけでなく派遣も含め初めて交換と言えますし、（研究グループ）ですから研究する為のグループ、つまり観光させる事を目的として受け入れや派遣をするのではなく、異国文化の体験と職業研究とが要です。

詳しく申し上げますとGSEプログラムは、職業を持った25歳から40歳までの職業経験の比較的浅い職業人の方を対象にしており、海外への派遣を通して自分の職業は海外でどの様に行われているかを体験し、その経験を自国に持ち帰り、地域に貢献出来る国際人を育て上げるプログラムです。つまり職業人の方を派遣し、職業人の方を受け入れるプログラムであり、その地区で選考された将来有望な職業人の集まりがGSE団員であるという事です。GSEというと受け入ればかり目立っておりますが、GSE団員を派遣するという事こそ、地区にとっては重要な意味を持つ事でありまます。

それは海外での経験を生かし、国際的な視野を持つ人材を育てられる事と、世界的な規模のロータリアンの奉仕活動、ロータリー財団活動の素晴らしさ等を体感し、派遣後には、学友会会員として、また時にはロータリアンとなり、内外からサポートしてくれる人物になる可能性が生まれるという点です。

次年度はスウェーデンRI第2360地区とのGSEプログラムを行います。

RI第2360地区はスウェーデン二番目の都市（イエーテボリ）を中心にした地区です。今回はRI第2510地区では初めて行う（特別重点的GSE）を行います。特別重点的GSEとは特定の職業人ばかりを集めて行うプログラムです。

今回はスウェーデンとのGSEプログラムの為、チームメンバーは特に社会福祉・介護に関する職業（障害者支援・高齢者支援）の方々を募集し、福祉先進国のスウェーデンでホームステイをしながら視察・研修を5週間体験して頂きます。

派遣チームリーダーは札幌東ロータリークラブの奥貫一之会員に決定いたしました。奥貫派遣チームリーダーは北海道リハビリの理事長をされている方であり、スウェーデンと関係が深い方でもある為、今回の福祉介護の特別重点的GSEチームの派遣チームリーダーには最適の方と思われまます。チームメンバー募集は近々開始され選考試験メンバー決定は3月頃を予定しております。GSE派遣は2010年4月から5月を予定しており、GSE受け入れは2010年の5月から6月頃の予定です。

ただRI第2360地区からの受け入れGSEチームは、今までと同様に不特定の職業の方々が5週間滞在研修をする予定です。

昨年はマレーシアRI第3300地区からの素晴らしいメンバーがやってきました、我々に深い感動を与えて帰国致しました。GSEチームのメンバーからの報告書では、滞在地での素晴らしい体験を通し日本のイメージがより良いものになったと、又派遣団員からは人生の中で最も得難い経験の1つで有り、沢山の方にこのGSEプログラムの素晴らしさを味わって頂きたいという意見が大半を占めております。

この様にGSEプログラムは国際親睦の面は基より、ロータリアンの奉仕精神やロータリーの教育活動を広く世界に示す最高の広報媒体になるものと確信しております。

是非ロータリー財団月間にあたり、皆さんのクラブで過去に派遣したGSEメンバーの体験談を披露させて頂く機会を与えて頂きたく思うと共に、ロータリー財団に対するご理解と御支援、並びにGSEプログラムに対する御協力を重ねてお願い申し上げます。

地区補助金について

地区補助金委員長 須田 義雄
(札幌南RC)

2008～09年度第1ゾーン～第4ゾーンAのロータリー財団地域セミナーが7月11日 東京で開催されました。ロータリー財団が地域社会や国際社会への奉仕を更に強化増大していくためには、奉仕活動の充実と資金面の援助が重要なポイントになります。

地区補助金DSG (District Simplified Grant) はクラブまたは地区内、国内また、ロータリークラブの無い国のニーズに応えるプロジェクトを実施し、一定の条件を満たせば地区補助金を受け取ることができます。

2006～07年度、地区補助金委員会が設置されていない地区は、マッチング・グラントを申請できなくなりました。地区補助金委員会はロータリークラブが人道的補助金を申請し、最終報告を提出するに至るまで、指導・援助するのが主な役割です。

2000年4月から3年間国内又は、地区内の社会奉仕プロジェクトにロータリー財団の補助金を出すという地域社会援助プログラムが試験的に行われた後、2003年7月1日から地区補助金制度がスタートしました。

今年は5回目の申請になりますが、プロジェクトの内容は年々条件が厳しくなっています。今回の地域セミナーハンドブックP49～53に詳細に記載されていますので、十分に精読し内容を確認してから申請されることをおすすめします。

<地区補助金の手続き(地区とロータリー財団)>

第1段階(10月末まで)

地区のDDFを確認のうえ、地区補助金の額を決定します。

第2段階(3月31まで)

地区は、地区補助金をロータリー財団に申し込みます。

第3段階(5月15日まで)

地区は、ロータリー財団より地区補助金の受理番号の通知を受けます。

以後の問合せはこの番号を使います。

第4段階(7月1日以降)

クラブの報告をすべて集めていけば、地区からロータリー財団へ最終報告をします。地区の最終報告の提出期限は補助金の支払日から1年以内となっております。

RI理事会は2008年6月の会合で未来の夢計画に基づく新補助金(New Grant based on Future Vision Plan)を決め、2010年7月から開始し、まずパイロット地区の試行後、2013～14年度から正式に新補助金に移行することになりました。

今年度の予算は33,000ドルで、10月末日現在、クラブからの地区補助金申請書は3件のみで12月中に第1回の地区補助金申請内容の審査を予定していますので、これに間に合うように奮ってご応募下さいようお願い致します。申請書は、財団セミナーの時に各クラブに配布していますが、再度希望する場合はガバナー事務所へご連絡下さい。

青少年交換事業

新年度生歓迎会・帰国報告会

地区青少年交換委員長 宮崎 善昭
(札幌西RC)

2008年8月23日(土)、2008～2009年度青少年交換留学生2名(フィンランド、カナダ)の歓迎会、並びに2007～2008年度留学帰国生7名の帰国報告会が、厚生年金会館で開催されました。本地区は世界4カ国(オーストラリア、アメリカ、カナダ、フィンランド)7地区と毎年留学生を交換しています。今年度は5名を派遣し、4名を受け入れています。

プログラムは、①受け入れ留学生(inbound)オリエンテーションとして留学に際しての注意事項の確認が行われます。留学生は、日本で生活をするにあたり10項目に及ぶ約束を守って1年間生活することを誓約し同意のサインをします。このオリエンテーションには、ホストクラブの会長、新世代委員長を始めとしてホストファミリー、クラブ・カウンセラーも同席し、見届けます。

②留学生日本語チェックは、留学生が1年間日本語を学ぶためのもので、ボランティアの日本語教師によって行われ1年間の学習計画を話し合います。

③帰国学生(outbound)報告会は、青少年交換委員会に対して行われます。1年間の留学を終え外国の生活で楽しかったこと、辛かったこと、工夫し努力したことなどの経験を通しての学びや新たな目標、希望について一人ずつ報告を行います。交換プログラムの改善点などの意見もこの報告会で出ますので、委員会としては情報収集の絶好の機会としています。

④歓迎レセプションは、地区ガバナー、地区新世代委員長を始め、ホストクラブ会長、幹事、青少年交換委員長、クラブ・カウンセラー、ホスト高校教師、ホストファミリー、日本語教師などの関係者が出席し、激励スピーチや学生によるパフォーマンスなど行い関係者の交流を深めます。

この「青少年交換プログラム」を何故RIが推奨し、国際大会の際、世界の青少年交換委員長会議を合わせて開催しているかは、本プログラムがロータリー運動の精神を継承する青少年の育成を図るための有効な手段であるという認識に他なりません。私たちロータリアンは、先ず自らが人間的に成長を果たしつつ職場や社会に様々な奉仕や貢献をしていこうと願うものですが、この運動の価値観を次代を担う青少年に伝える必要があるのではないかと思います。また、国際的奉仕団体の奉仕「証し」として内外にこの活動を広報していくことが大切であると考えています。

会員の高齢化、減少が続いていますが、このように国際青少年奉仕活動を連綿と実践していくエネルギーを通して、新たな会員の獲得にも繋がるのではないかと希望をもちます。





ロータリーの哲学者

国際ロータリー第2510地区

PG 塚原 房樹

(札幌東RC)

《アーサー・フレデリック・シェルドン》

ポール・ハリスの自伝“*This Rotarian Age*”の中に「天の祐け」という章があります。それはロータリー運動に不滅の足跡を残す二人の人物がシカゴクラブに入会してきたことです。一人は前回ご紹介したチェス・ペリーで、もう一人はミシガン州Vernonという小さい村で生まれたアーサー・フレデリック・シェルドンでした。チェスはロータリーのハードの面、すなわち（国際ロータリーの組織）を構築し、シェルドンはロータリーのソフト面（奉仕概念の開発）に貢献しました。シェルドンはミシガン大学を優秀な成績で卒業、セールスマンとして成功をおさめた後、シカゴにビジネススクールを創設して「サービス」を根底にした「セールスマンの科学」を教えました。彼の学校はいろいろな販売の方法を教えました。一番力を入れて指導したのは、商業道德の重要性についてでありました。彼は商売において「永続的に利益を保証する唯一の信頼すべき方法は、よく他人のために尽くすこと、すなわちサービスがそれである」と断定しました。シェルドンは入会して2年未満にもかかわらず、シカゴの कांग्रेसホテルで開かれた第一回全米ロータリークラブ連合会で次のようなスピーチをしました。「19世紀の特徴は競争／competitionであった。それは同族相食む／dog-eat-dogの世界であった。しかし20世紀初頭には、人類の知性が輝きを増すにつれ売り手と買い手の「協調」／cooperationの時代でなければならなくなった。なぜなら他人への公正な商行為を行うものだけが報いられることになるからである。商売は人道的サービスの科学である。すなわち『もつともよく奉仕をする者こそ最大の利益を得る』／He profits most who serves best」ちなみにこの句についてハリスは著書“THIS ROTARIAN AGE”の中で「1908年のある夕、ミネアポリスの理髪店の椅子からその組んでいた長い脚を解いて飄然と戸外にあらわれたシェルドンの頭脳には、『最もよく奉仕をする者、最大の利益を得る』という句が醸成されていた」と記しています。

《第二回大会のスピーチ》 互惠主義からの決別

シェルドンはハリスから翌年のポートランドの大会でもう一度スピーチをしてほしいと頼まれました。残念ながら彼は英国に行かねばならずやむを得ず原稿を送りました。チェス・ペリーが大会でそのレポートを読みました。人々は座席から身を乗り出すように演説の朗読を熱心に聞き入りました。その内容は“THE GOLDEN STRAND”によると「経営学は／He profits most who serves bestに基づくサービス学である。いかなる団体、会社もサービスに従事した人々の成功の積み重ねである。広い意味においてすべての人はセールスマンである。各自は売るべきものを持っている。広い意味で人生の成功は幸運とかチャンスによるものではなく、道徳的、物質的および精神的な法則に支配されるものである。すべてこれらの自然法則と調和して働けば、最高の成功を勝ち得られるはずである。人もし天地の理法／cosmic consciousnessを知ればおのずから万物存在の意味が解けてくる。それは人類連帯／solidarity of the raceの自覚であり、万有一如／the all-onenessの認識

であり人類みな兄弟の理解である。この高い水準に立って眺めるとき、人々は次の事実が謝りない現実であることを理解するであろう。すなわちビジネスの上であろうと、あるいはいかなる場所においても、/He profits most who serves bestでなければならない」

朗読が終わったとき、感極まってしわぶき一つなく、しばしの間座っていた聴衆の間から割れんばかりの拍手が起きました。そして大会決議委員長のジム・ピンカムが立ち上がり、「ロータリアンは今までに神の教え/Golden Ruleと仲間同士の商業取引の悪習慣をどう意義づけるかについて論議してきたが、この6つの単語でまとめられた言葉こそ我々の考えを明確に表現したものである。/He profits most who serves bestこそ、この大会決議の結びの言葉にしてはどうでしょうか」と叫びました。この瞬間会場は歓声の渦と化し歓呼の声で採択されました。ロータリアンたちは「ロータリーの本当の存在意義は何か？」と問い続けてきたのです。彼らは初期の慣習である会員同士の互惠取引に皆満足していたわけではありません。取引上の利益は二次的なもので第一の目的とすべきでないと感じていたのです。そう感じた人々も口にするだけで、実際には全く行動には移さなかったのです。シェルドンのスピーチを聞いて実行の伴う最初の脱皮をしたのです。

《2つのモットー》

1911年ポートランドの全国大会が開かれました。大きな船でコロンビア川を下りながらの快適な大会でした。その日のスピーカーが創立後間もないミネアポリスクラブのフランク・コリンズでした。彼は「ロータリークラブでなすべきことはただ一つ、第一歩が肝心なのである。自分のために何かを得ようとして入ってくる人々は間違っている。そんな人はロータリアンとはいえない。私のクラブの設立以来遵守されている方針は『サービスだ、利己でない』/Service, Not Self なのです」またもや/Serviceという語が登場しました。大会の参加者はコリンズの話を中心に聞いて、彼の一句/Service, Not Selfに対して大拍手を送りました。このスピーチはシェルドンの/He profits most who serves bestが発表されたのと同じ時のものです。二つの句はやがてあちこちのロータリークラブで使われることになりましたが、そのうちに/Service, Not Selfは『超我の奉仕』/Service, Above Selfと変わりました。そしてこの二つの句がモットーとして正式に採択されたのは1950年のデトロイトの大会でした。しかし/He profits most who serves bestの方は不運に見舞われます。ロータリーに女性会員が入会するようになり、“He”は男性名詞なので差別用語に当たるので、廃止しようという提案が規定審議会に出されたことをご記憶の方も多いと思います。幸い日本のRI理事の猛烈な反対により『最もよく奉仕をする者、最大の利益を得る』という句は現在復活しました。

《プロフィット》

さらにシェルドンのモットーは一部の人々の誤解を受けました。それは“profit”が金や物を意味しているので気に入らないという方が多いようです。事実、英語の“profit”は金銭上の利益を意味しています。ハリスはこれを「人生の“something”である」といいました」しかし『ロータリー通解』の中でガイ・ガンディカーは“profit”をこのように表現しています。「自己の職業を通じての活動、自己のクラブ活動、公共的慈善活動の結果、人はどのような利益/profitを期待できるのか。その利益は、売値と原価の差額から生じる近視眼的、かつ瑣末なものではない。利益とはすべてのロータリアンが、もっと立派な人物そしてもっとスケールの大きい人間になり、自己に対し、仲間に対してもまた社会に対しても、もっと優れた奉仕をする機会がもっとたくさん与えられることを言うのである」このように“profit”は金でも、ものでもないことがお分かりいただけたでしょう。



クラブ訪問が自分の勉強に

地区ガバナー補佐（第11グループ担当）

光銭 裕二

（函館五稜郭RC）

第11グループは、昭和32年創立で昨年50周年を迎えた函館東RC、昭和37年創立の江差RC、昭和39年に創立され今年45周年を迎えた函館北RC、昭和44年創立の松前RC、昭和45年創立され来年40周年を迎える函館五稜郭RC、平成8年創立の北斗RC（旧上磯RC）の以上6クラブです。ガバナー補佐に就任して3ヶ月経過しましたが、担当クラブの1回目の訪問を全て終了し、大きな行事として函館北RCのクラブ創立45周年記念例会及び函館東RC、函館五稜郭RCのガバナー公式訪問を終えたところです。第11グループ全体としては会員減少とそれに伴う予算面での制約はあるものの、クラブ内の親睦が十分図られ、各クラブ会長のリーダーシップのもとそれぞれ個性のある奉仕活動を実践しています。以下、各クラブ訪問時の印象についてお伝えいたします。

- **函館東RC**：すでにガバナー公式訪問の随行を含めて3回訪問しました。1回目の訪問は函館湾内クルーズ観光船「ブルームーン」での夜間例会で、「松山・池垣丸」（松山会長、池垣幹事）の一年間の無事を祈って出航安全祈願例会が行われました。昨年立派な創立50周年行事を成し遂げたクラブの結束力でもわかるように非常にあたたかく、まとまりのあるクラブです。
- **江差RC**：歴史と伝統に裏付けられたしっかりとした例会を行い、江差ロータリーの森交流会やパークゴルフ大会など、地域に根ざした奉仕プログラムを積極的に実践しています。会員増強についてチャーターメンバーの今川徳郎委員長から「初心を思い出して会員増強にがんばりたい」という力強いお言葉を頂き、私自身励みになりました。
- **函館北RC**：創立45周年記念例会を含めてすでに3回訪問させていただきました。山下清司会長のクラブ運営方針が徹底され、それに対してベテランの会員が積極的にバックアップしているバランスのとれたクラブという印象を受けました。会員減少に伴うクラブ運営の厳しさの中、洞爺丸海難慰霊碑清掃奉仕活動、函館ハーフマラソンの協賛・大会協力など多くのプログラムを実践しています。
- **松前RC**：会員5名のクラブですが、少ない会員でもロータリークラブを維持していることに敬意を表したいと思います。クラブ活性化と会員増強の点から一般市民の方が参加できる卓話として、講演会を企画するための人的な面での支援、奉仕プログラムに対する地区補助金の活用を提案しているところです。
- **函館五稜郭RC**：各委員会の連携がよく取れ、まとまりのあるクラブです。特に長年に取り組んでいる函館野外劇への参加、箱館五稜郭維新パレードへの参加は地域との交流という点で評価できると思います。さらに今年度から行われた地域の高齢者と保育園児との交流会「手に手つないで」も今後の展開に期待したいと思います。
- **北斗RC**：会員数20名のクラブですが、各学校や市教委、自衛隊などと連携をとり、子供たちの防災キャンプを実施し防災意識の高揚に貢献しています。さらに薬物乱用防止街頭募金活動など、特に新世代に対する奉仕プログラムに積極的に取り組んでいます。



以上各クラブを訪問して多くの会員の方とお会いして、ロータリーに関することやその他多くのことを私自身勉強させていただいています。まだまだガバナー公式訪問、IMなどいろいろな行事が予定されています。皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。

札幌大通公園ロータリークラブから、 「ご協力有難うございました」

ワンコインで奉仕の理想の実現を!と呼びかけて、札幌大通公園ロータリークラブは2007年10月から、メイクアップのための受付で500円硬貨を一つニコニコBOXに入れて頂くことを始めました。従来のメイクアップでは、ただ記名するだけでした。私たちは、この記名するだけの行為をもっと意味のある行動になるようなものに変更したいと考えました。500円硬貨を一つニコニコBOXに入れてもらえれば、その浄財を何らかの奉仕活動に役立てることが出来ると考えたのです。こうすることで、札幌大通公園ロータリークラブで受付をすることが奉仕の理想を実現することにつながると考えました。

1年間で62名の方が協力して下さいまして32,800円が集まりました。もう少し金額がまとまってから、適切な社会奉仕活動に役立てたいと思っております。第2510地区には73のクラブがあります。もしも全てのクラブが受付でワンコインを拠出してもらおう方式をとるとしますと、単純に計算してもおよそ240万円になります。私たちのクラブの受付はあまり多い方ではありませんから、他のクラブの受付ではもっと多い金額が集まると予想されます。もしも全国でこの方式を採用するとすれば、全国には34地区あるわけですから、8,000万円を超える額が集まると考えられます。希望的な観測になりますが1億円が集まることも夢ではないと想像できます。私たちは声を大にして呼びかけたいと思っております、ワンコインで奉仕の理想の実現を!と。



第2510地区の2008~2009年度の目標の一つは「四つのテストを唱和しよう」です。勿論それは単に唱和するだけではなく、「四つのテスト」の精神を実践しようと呼びかけていることであることは言うまでもありません。「四つのテスト」の最後の項目は「みんなのためになるかどうか」です。私たちが考えた、受付のメイクアップでワンコインをニコニコBOXに入れてもらう方式は「みんなのためになる」のです。それは「四つのテスト」の精神を具体化することに通じることになるわけです。

メイクアップのために記名するという行為は「みんなのためになる」わけではありません。しかしこの時に、ワンコインでこの活動に協力して頂けたら、それはロータリーの奉仕活動に参加することにつながるのです。その資金が財団への寄付であれ、何らかの奉仕活動のためであれ、有効に活用されるとしたならば、それは大変意味のある行為になるのではないのでしょうか。

ロータリーは「奉仕の理想に集いし友」のあつまりです。「四つのテスト」はロータリアン一人ひとりが持っている貴重な宝です。私たちがロータリー活動の中で行う何気ない行動が、「四つのテスト」の精神に沿った活動に変化するとすれば、素晴らしいことではないのでしょうか。私たちは心を込めて呼びかけます。ワンコインで奉仕の理想の実現を!

地区委員会報告

<p>■委員会名： IC委員会</p> <p>■委員長： 光銭 健三</p>	<p>■開催日： 2008年9月27日（土）</p> <p>■開催場所： ガバナー事務所</p> <p>■出席人数： 7人</p>
<p>1. 地区大会ブースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区メーリングリストやメールマガジンの登録受け付けを行う。 オフラインミーティングのコーナーを設ける。 （地区メーリングリスト登録者やJRIC会員のオフミコーナー） パソコンを3台程度用意してインターネットコーナーを設ける。 プロジェクターを使ってデモンストレーションを行う。内容は「5分で出来るホームページ講習会」やアクロバットの使い方など。 その他ブース設営の役割分担を行った。 <p>2. 今年度の活動予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に続いて「5分で出来るホームページ講習会」を開催する。 開催場所は札幌として準備を進めることとする。 地区メールマガジンへの情報投稿を地区委員が分担して行う。 IC委員会で管理している地区ホームページの内容をさらに充実させるために各委員が積極的に情報を提供する。グループの情報やクラブの情報、ガバナー訪問の情報など。 	

2009 - 2010年度GSEプログラム決定

スウェーデンにありますR I 第2360地区と当地区の間でのGSEプログラムが国際ロータリーより承認されました。（福祉・介護を中心とした特別重点GSE）

また、派遣のチームリーダには、奥貫一之氏（札幌東RC・社会福祉法人北海道リハビリリー理事長）に決定いたしました。つきまして、以下の要領にて派遣団員の募集を行います。

- 募集人数 4名（簡単な日常英会話の出来る方が望ましい）
- 募集期間 2008年11月15日～2009年1月15日
- 選考日 2009年2月1日（日）面接と英会話の簡単な口頭試問もあります
- 選考結果発表 2009年2月15日
- 派遣期間 2010年4月24日～2010年5月30日（暫定）
- 派遣先 スウェーデンの南西部イエテボリを中心とした地域
- 募集資格 社会福祉の中でも身体障害者および高齢者の支援業務に従事する者で、実務経験が最低2年あり、応募時に25歳～40歳の方
- 派遣訓練 語学を中心とした研修を約1年間（月1回）受講していただきます。
- 応募方法 ガバナー事務所・各ロータリークラブを通してGSE委員会へ
- 連絡先 R I 第2510地区ガバナー事務所 GSE委員会
札幌市中央区大通西11丁目4大通藤井ビル7F
電話（011）207-2510 Fax（011）207-2512
e-mail:rid2510@nifty.com

ガバナー公式訪問

伊達ロータリークラブ

9月2日（火）

- ・会長挨拶：クラブの活動が近視眼的なものに陥らないよう、大所高所よりご指導下さい。
- ・ガバナー挨拶：本日は、皆さんの話を、直接聞きたく、クラブ協議会に参加しました。
- ・各委員長活動計画発表

・ガバナー講評：姉妹友好クラブ委員会や周年事業における、植樹された樹木の管理育成に関して、自身の体験からも重要であり、維持管理の事業を続けて欲しい。

姉妹友好クラブ同士で、青少年の交流などの事業行う際、セクハラ問題に対応する新たな保険が作られたので、加入してリスクに対処した上で事業を推進して欲しい。

新世代活動推進においては、青少年交換留学は、ロータリアンの子弟が参加できる唯一の留学制度であり、高校生のいるメンバーに大いに活用してもらいたい。国際奉仕のWCSIに関して、財団の補助金委員会の資金を活用した事業を検討しては？

新入会員へのロータリー情報提供に関しては、例会へ出席することが1番だと思います。

- ・会長謝辞：ガバナーから各委員会へのご指摘を生かして活動して行きたい。



室蘭北ロータリークラブ

9月2日（火）

9月2日（火）矢橋ガバナーがホテルサンルート室蘭へ到着されました。室蘭北ロータリークラブでは齊藤会長をはじめとする、若木ガバナー補佐、ガバナー補佐幹事和田さん、室蘭北ロータリークラブ副会長の齊藤（泰）さん、そして、徳永幹事でお出迎え致しました。当初、矢橋ガバナーとロビーにて雑談を交わした後、8階にある特別室にて会長・幹事懇談会を開催し、室蘭北ロータリークラブの現状及び今年度の活動報告を行い、矢橋ガバナーより、ご指導を受けました。会長・幹事会は無事1時間程で終了し、引き続き4階にてクラブ協議会を始めました。クラブ協議会の中では、当クラブ委員長より、各委員会活動計画を発表し、矢橋ガバナーよりコメントを頂きました。クラブ協議会は時間が足りなかったため、懇親会にて矢橋ガバナーより具体的に活動内容についてお話を頂きました。矢橋ガバナー及び若木ガバナー補佐、和田ガバナー補佐幹事に於かれましては大変お疲れ様でした、また、感謝申し上げます。



室蘭東ロータリークラブ

9月3日（水）

矢橋ガバナーと若木ガバナー補佐をお迎えし、10時より会長・幹事会を開催しました。矢橋ガバナーは昔から室蘭を訪れる事が多く、土地柄を良くご存知なことから楽しくお話を伺いました。

11時からのクラブ協議会においては各委員会の活動計画を発表しましたが、特にインターアクトクラブの活動について活発な意見交換がなされ、最後にはガバナー講評を戴きました。

12時30分から例会にご出席戴き、「保健と飢餓追放」「水の保全」「識字率の向上」といった強調事項への取組みによって子供達の命が無為に失われるのを防がなくてはならないこと、バーミンガム国際大会への多くの会員が参加して欲しいことなどの卓話を戴いて終了しました。



登別ロータリークラブ

9月3日（水）

9月3日、登別市内のホテル平安で、矢橋ガバナーをお迎えして開催いたしました。当日は当クラブ、毎年恒例の「やまべを食する会」（当クラブの会員が釣ってきたやまべをいろいろな料理法で食する）を、この日に合わせました。

当日は30名程の出席で、ガバナーといろいろなお話、いろいろな料理のやまべで有意義な一晩でした。



室蘭ロータリークラブ

9月4日（木）

9月4日にガバナー公式訪問があり、矢橋ガバナー、若木第9グループガバナー補佐、和田ガバナー補佐幹事を迎えて、会長・幹事懇談会、クラブ協議会、例会が行われた。会長・幹事懇談会及びクラブ協議会では、吉沢会長、各委員長が、活動計画と活動実績（WCS事業としてのタイへの水事業の協賛、子供達や体の不自由な方に対する活動など）を報告し、矢橋ガバナーより、活動への評価とさらなる期待を込めたコメントを頂いた。例会では、矢橋ガバナーは、室蘭ロータリークラブとのこれまでの数々の交流についてお話された他、RI方針、ロータリー財団、米山奨学会へ一層の理解と協力をお願いするとの話をされた。その後、新宮室蘭市長へ表敬訪問され、室蘭市長との親好を図られました。



洞爺湖ロータリークラブ

9月5日（金）

10時よりの会長・幹事懇談会、9時30分に会場に入られるという日程を載っていたのでその前に行ったつもりが、ガバナーはひと足先にロビーのソファーに座っておりました。大変恐縮して始まった会議ですが、和やかな懇談形式をとって載いて懇談会もクラブ協議会もスムーズに終了致しました。定例会におけるガバナーのお話は笑わせる場面も作りながらロータリーに思いを馳せる熱のこもったものでありました。ロータリーの現状や今後の問題など多岐にわたり感銘を致しました。今後益々我々のリーダーとしてご活躍をお願いするところです。写真はこの度行われた洞爺湖サミットの宣言の地として建てられたモニュメントの前で写したものです。



三石ロータリークラブ

9月8日（月）

当クラブの公式訪問は、矢橋ガバナーと第8グループ園ガバナー補佐を迎え、三石鳧舞地区にある三石温泉「蔵三」で行いました。「蔵三」は「道の駅・みついし」の中にあり、広い駐車場があるため、バスや自家用車で来るお客さんが多い施設です。会長・幹事との懇談は10時半からクラブ協議会、例会は会員15名の少人数クラブですので同じメンバーで11時半から13時半まで行いました。当クラブは大きく目立つような活動はできませんが、自分たちのできる事を、誠意をもってやり遂げることを基本にしております。ポリオ・プラス1クラブ1,000ドル拠出は小クラブにとって負担になる事を申し上げたり、各委員会の活動状況や当クラブの特徴的な活動のいくつかを説明申し上げたりしました。



浦河ロータリークラブ

9月9日（火）

朝10時から会長・幹事・会長エレクトとの懇談会で当クラブの現況をお話し、それに対しガバナーからRIの方針などを交えながらお話し戴きました。

11時からクラブ協議会を行い、各委員長から活動方針や事業推進する上での問題点をお話し、ガバナーは一つ一つにご自分の経験や各地の例などを挙げながらお答え戴きました。

12時半からは、例会を開催しガバナーには講話をして戴きましたが「夢をかたちに」のRI会長方針や当クラブへのアドバイスなど時間が足りなくなるほど有意義な内容と、ガバナーの温かい人柄が溢れ一同感激しました。行き届かない面が多々あったと思いますが、お別れに「ありがとう。がんばって下さい」と手を振ってくれたガバナーの笑顔に感謝し、これからのロータリー活動に邁進致します。



様似ロータリークラブ

9月9日（火）

当日、矢橋ガバナーは予定時刻より1時間程早く到着されましたので、公式スケジュール以外にも色々なお話を伺うことができました。和やかな雰囲気の中でガバナーのお人柄等を知る事ができました。

例会では、新入会員がおりましたので、ガバナーより直接にロータリーバッジ、また新入会員紹介者にはスポンサーバッジの贈呈がございました。またご経験豊富なガバナーより当クラブに貴重なご意見、ご指導を戴きました。ロータリー財団の地区補助金の有効な活用法や他地区クラブの様々な活動等にも触れられ、非常に有意義な例会となり、最後には参加者全員公式訪問記念写真におさまり公式訪問は終了致しました。



新 入 会 員 の ご 紹 介

(敬称略)



加藤 敏浩
(白老RC)

■入会/
9月1日
■職業分類/
石材業



高橋 博昭
(岩見JRRC)

■入会/
9月18日
■職業分類/
区域貨物運送



松本 新一
(苫小牧北RC)

■入会/
9月30日
■職業分類/
社会保険労務士



星 巖
(浦河RC)

■入会/
7月1日
■職業分類/
小売業



榎本 淳一
(浦河RC)

■入会/
7月1日
■職業分類/
ニュース報道・編集者



村井 正明
(浦河RC)

■入会/
9月2日
■職業分類/
ホテル管理

札幌東RC・札幌西北RC合同例会 卓話「柔道と私」

総合警備保障㈱ 参与・シドニーオリンピック金メダリスト **井上 康生氏を迎えて**

9月18日(木)に札幌西北RCとの合同例会で、総合警備保障㈱参与・シドニーオリンピック金メダリストの井上康生氏を迎えての例会が開催されました。約100名の出席という多人数の例会は久々であり、大変賑やかな中での開催でした。

井上康生氏は非常に大きくガッシリした方だと想像していましたが、思ったよりもスリムで少し意外に感じました。卓話では幼少の頃から中学・高校生までの活躍、怪我をしてしばらく勝てなかった時期、スランプから抜けだせない時期、アテネオリンピックでの惨敗、世界選手権から始まりシドニーオリンピックでの金メダル獲得、父や母・家族そして東海大学の山下泰裕先生との出会い、ALSOK入社後の周囲の方々との絆のお話しには心打たれるものがありました。特に親であり師匠である父から教え込まれた厳しい教育、礼儀の大切さ、相手を思い遣る心、そして母の励ましと息子を信じきる心等のお話しは今の時代にこそ最も大切なことではないかと強く感じました。

最後に普段お目にかかれない、各界の著名人を招いてのこのような楽しい合同例会がこれからも益々盛んに開催されることを期待し、また願っております。



札幌東RC クラブ会報委員長 上田 進

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌東 R C 名塩 良一郎 会員(4回) 9月30日

■ポール・ハリス・フェロー

札幌東 R C 安田 経 会員 9月30日

新札幌 R C 伊藤 豊 会員 9月19日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

美唄 R C 大竹 繁夫 会員(4回) 9月24日

函館五稜郭 R C 鈴木 良二 会員(2回) 9月19日

函館東 R C 池垣 清信 会員(21回) 9月30日

苫小牧北 R C 伊藤 長英 会員(31回) 9月30日



(253号)

〔ロータリー文庫〕は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

最近のロータリー情報より(3)

- ◎ [ロータリーのサーヴィス・コンセプトについて考えよう]
松宮 剛 2007 9p (D.2500 地区大会報告書)
- ◎ [ロータリーの心と原点を大切にしよう]
廣畑富雄 2006 10p (D.2700 地区大会記録)
- ◎ [ロータリーの原点]
成川守彦 2006 5p (D.2700 地区大会記録)
- ◎ [教育という大業]
佐藤千壽 2008 12p (D.2670 地区大会記録)
- ◎ [ロータリー財団活動の成果
～世界平和への貢献(シンポジウム)]
内藤幸彦 他 2008 4p (D.2590 地区大会の記録特集号)
- ◎ [CLPを理解しよう]
成川守彦 2007 5p (D.2670 IM報告書)
- ◎ [ネパールの医療活動について]
伊藤公夫 2008 3p (D.2540 地区大会記録)
- ◎ [松枯れ防止活動]
那波宗久 2008 3p (D.2540 地区大会記録)
- ◎ [ロータリーの初期の人々
シェルドン・コリンズ・ベア・ラグルス・デイビッドソン]
三木明訳 2007 13p (D.2680 月信)
- ◎ [五つの課題への協力(クラブ会長就任演説)]
ガイ・ガンディカー
田中毅訳 -- 4p (ロータリーの源流から)
[上記申込先:ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

11月のロータリーレート 1ドル=100円

2009国際ロータリー年次大会 バーミンガム大会旅行案のご案内

2009 RI Convention in Birmingham, England, 21-24 June

RI第2510地区の皆様と一緒に第100回の記念大会に参加をするツアーを設定したいと思います。下記の旅程案をご検討の上、ご意見などお寄せください。ぜひ、大勢の皆様と楽しい旅行にしたいと思います。

尚、下記の旅程案は、皆様のご意見で変更をすることがありますので、あらかじめご了承ください。

① スコットランド湖水地方とバーミンガム世界大会参加コース 8日間

- ◆日 程：6月20日～6月27日 6泊8日間 添乗員付き
- ◆旅程概略：①千歳～経由～バーミンガム②世界大会参加～③イングランド・湖水地④世界遺産エジンバラ⑤車窓を楽しみながら～ロンドン⑥オックスフォード～ストラットフォード・アポン・エイボン（シェイクスピアの生家など）～ロンドン市内視察（世界遺産・大英博物館など）⑦ロンドン～経由～⑧新千歳
- ◆ポイント：風光明媚な湖水地方を巡りスコットランド、イングランドの観光地を楽しみます。

② ベルギー・パリとバーミンガム世界大会参加コース 8日間

- ◆日 程：6月20日～6月27日 6泊8日間 添乗員付き
- ◆旅程概略：①千歳～経由～バーミンガム②世界大会参加③ロンドン～ブリュッセル④登山列車～гент～ブルージュ市内視察⑤⑥パリ（エッフェル塔・コンコルド広場・凱旋門等）・セーヌ河ディナークルーズ～ヴェルサイユ宮殿～⑦パリ～経由～⑧新千歳
- ◆ポイント：ベルギーの首都ブリュッセルとパリを巡りイギリスへ向かいます。（TGVを利用）

③ スイス、英国、バーミンガム世界大会参加コース 8日間

- ◆日 程：6月19日～6月27日 7泊9日間 添乗員付き
- ◆旅程概略：①千歳～経由～ロンドン②③ロンドン市内視察～バーミンガム④⑤～チューリッヒ・インターラーケン（登山列車）～グリンデルワルト散策⑥ツエルマット（マッターホルン視察）⑦ローザンヌ⑧～ジュネーブ市内視察～経由～⑨新千歳
- ◆ポイント：スイス・アルプスの山岳リゾートを楽しんだ後、世界大会へ

④ バーミンガム世界大会参加とロンドンコース 6日間

- ◆日 程：6月20日～6月25日 4泊6日間 添乗員なし
- ◆旅程概略：①千歳～経由～バーミンガム②世界大会参加③バーミンガム自由④ロンドンへ⑤ロンドン自由～経由～⑥新千歳
- ◆ポイント：イギリス経験者へ世界大会に参加をして、ロンドン自由行動でお楽しみください。

⑤ イタリア周遊とバーミンガム世界大会参加コース 9日間

- ◆日 程：6月15日～6月23日 7泊9日間 添乗員付き
- ◆旅程概略：①千歳～経由～ミラノ②水の都ベニス③フィレンツェ（ピサの斜塔）④イタリア新幹線～ローマ⑤ローマ・バチカン市国⑥ロンドン経由バーミンガム⑦世界大会参加⑧ロンドン経由～⑨新千歳
- ◆ポイント：イタリア、ミラノ・ベニス・フィレンツェ・ローマ4都市を巡り、世界大会に参加。

【ご旅行のご相談、お問合わせは】

株式会社日本旅行北海道札幌営業部 西村 勉
電話：011-208-0170 FAX：011-208-0174

⑥ 「コッツウォルズ」とスコットランド・バーミンガム世界大会参加コース 8日間

- ◆日 程：6月18日～6月25日 6泊8日間
- ◆旅程概略：①千歳～経由～ロンドン②③ストラットフォード・アポン・エイボン観光（コッツウエルズ観光）④世界大会参加⑤イングランド・湖水地方観光⑥エディンバラ観光⑦ロンドン～経由～⑧新千歳

◆この旅程はJTB北海道法人営業札幌支店へお問合せ下さい。
電話：011-271-7023 FAX：011-222-2910

●ご旅行代金の確定は11月中旬になる予定です。●上記以外の特別コースの企画も承っております。

第2510地区オン・ツー・バーミンガム委員長 丸山 淳士

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2008.9.30	増減	内女性	
1	深 川	4	36	36	0	3	90.44
	羽 幌	4	48	48	0	1	82.70
	妹 背 牛	4	9	9	0	0	83.33
	小 平	4	14	14	0	0	69.64
	留 萌	4	45	45	0	0	84.74
	小 計		152	152	0	4	82.17
2	赤 平	3	29	28	-1	1	92.00
	芦 別	4	44	44	0	0	89.10
	砂 川	4	52	55	3	0	96.82
	滝 川	4	99	101	2	1	81.00
	小 計		224	228	4	2	89.73
3	美 唄	4	38	38	0	0	86.00
	江 別	4	34	34	0	1	88.23
	江 別 西	5	27	29	2	3	88.96
	岩 見 沢	4	87	90	3	0	93.41
	岩 見 沢 東	5	34	35	1	4	86.88
	栗 沢	4	23	24	1	1	96.70
	栗 山	3	26	26	0	2	100.00
	当 別	4	34	34	0	0	84.45
	小 計		303	310	7	11	90.58
4	札 幌	4	117	125	8	0	97.48
	札幌あけぼの	4	18	17	-1	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	25	0	4	80.44
	札 幌 北	4	43	42	-1	6	91.25
	札幌モーニング	3	49	52	3	0	76.21
	札 幌 西	4	62	63	1	4	97.22
	札 幌 西 北	4	39	40	1	5	94.81
	札 幌 手 稻	4	34	35	1	1	92.14
	小 計		387	399	12	21	91.19
5	札 幌 東	4	120	124	4	0	96.17
	札 幌 清 田	4	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	4	65	65	0	0	100.00
	札幌真駒内	4	35	36	1	3	90.71
	札 幌 南	3	92	95	3	0	96.51
	札幌大通公園	4	9	9	0	2	83.30
	札幌セントラル	4	14	14	0	6	72.80
	新 札 幌	4	32	32	0	3	83.08
	小 計		385	393	8	18	90.32
6	岩 内	4	21	22	1	0	83.48
	俱 知 安	4	46	46	0	4	71.73
	小 樽	4	69	69	0	0	87.11
	小 樽 南	4	73	74	1	0	94.70
	小 樽 銭 函	4	21	21	0	2	80.00
	蘭 越	3	11	11	0	0	90.00
	余 市	4	39	41	2	4	83.60
	小 計		280	284	4	10	84.37

9月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,872人(99人)
増加会員数	56人
当月平均出席率	86.51%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2008.9.30	増減	内女性	
7	千 歳	4	63	64	1	3	78.50
	千歳セントラル	3	35	35	0	1	85.70
	恵 庭	4	39	40	1	0	84.20
	北 広 島	4	17	17	0	0	91.18
	長 沼	4	20	20	0	3	73.70
	由 仁	4	10	11	1	1	89.47
	小 計		184	187	3	8	83.79
8	え り も	4	22	22	0	0	97.72
	三 石	4	15	15	0	1	96.67
	様 似	4	23	24	1	1	88.70
	静 内	5	72	73	1	1	86.29
	浦 河	4	34	34	0	2	100.00
	小 計		166	168	2	5	93.88
	9	伊 達	4	53	54	1	0
室 蘭		4	43	45	2	0	71.80
室 蘭 東		4	41	41	0	0	77.60
室 蘭 北		4	34	34	0	2	100.00
登 別		4	31	31	0	2	80.65
洞 爺 湖		4	9	9	0	0	92.00
小 計			211	214	3	4	83.30
10	函 館	4	87	89	2	0	74.58
	函 館 亀 田	4	45	46	1	2	98.86
	森	4	34	35	1	0	82.20
	七 飯	4	16	16	0	0	68.70
	長 万 部	4	10	10	0	0	85.00
	函館セントラル	4	24	26	2	1	65.38
	小 計		216	222	6	3	79.12
11	江 差	4	19	19	0	1	72.30
	函 館 五 稜 郭	4	55	56	1	0	100.00
	函 館 東	4	45	44	-1	4	85.20
	函 館 北	4	30	31	1	0	92.50
	北 斗	4	19	18	-1	2	60.00
	松 前	3	5	5	0	0	80.00
	小 計		173	173	0	7	81.67
12	白 老	4	26	27	1	0	72.80
	苫 小 牧	4	50	55	5	2	83.99
	苫 小 牧 東	4	25	26	1	2	87.50
	苫 小 牧 北	4	34	34	0	2	96.83
	小 計		135	142	7	6	85.28
合 計		2,816	2,872	56	99	86.51	

地区カレンダー（11月・12月）

11月 ローターリー財団月間	
1 (土)	岩見沢RAC創立40周年記念式典（岩見沢）
2 (日)	
3 (月)	文化の日
4 (火)	公式訪問（七飯RC）
5 (水)	公式訪問（函館北RC、北斗RC）
6 (木)	公式訪問（江差RC、松前RC）
7 (金)	
8 (土)	
9 (日)	
10 (月)	
11 (火)	公式訪問（札幌清田RC、札幌セントラルRC）
12 (水)	公式訪問（札幌真駒内RC）
13 (木)	公式訪問（札幌西北RC）
14 (金)	小樽RC創立75周年記念式典（小樽） 公式訪問（札幌幌南RC）
15 (土)	公式訪問（札幌手稲RC）
16 (日)	
17 (月)	公式訪問（札幌北RC）
18 (火)	公式訪問（札幌はまなすRC）
19 (水)	ロータリー財団地域セミナー（東京）
20 (木)	第2回ガバナーエレクト研修セミナー（東京）
21 (金)	ロータリー研究会（東京）
22 (土)	ロータリー研究会（東京）
23 (日)	勤労感謝の日
24 (月)	振替休日
25 (火)	公式訪問（北広島RC）
26 (水)	公式訪問（札幌RC）
27 (木)	公式訪問（札幌東RC）
28 (金)	
29 (土)	第3グループIM（栗沢）
30 (日)	

12月 家族月間	
1 (月)	
2 (火)	公式訪問（札幌西RC）
3 (水)	
4 (木)	
5 (金)	
6 (土)	
7 (日)	
8 (月)	
9 (火)	
10 (水)	
11 (木)	
12 (金)	
13 (土)	次期地区ガバナー補佐会議（札幌）
14 (日)	
15 (月)	
16 (火)	
17 (水)	
18 (木)	
19 (金)	
20 (土)	
21 (日)	
22 (月)	
23 (火)	天皇誕生日
24 (水)	
25 (木)	
26 (金)	
27 (土)	
28 (日)	
29 (月)	
30 (火)	
31 (水)	

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 江別 RC：11月20日（木）移動夜間例会 18：30～
場所：美華大飯店（江別市牧場町23-17）
- 岩見沢東RC：11月25日（火）休会
第3グループIM（11月29日）の振替
- 千歳 RC：11月20日（木）移動夜間例会 18：30～ 場所：丸駒温泉
- 千歳セントラルRC：11月25日（火）移動例会「エコプロジェクト事業所視察」
- 長沼 RC：11月 3日（月）、11月24日（月）休会
- 室蘭東 RC：11月26日（水）夜間例会 場所：蓬岫殿
- 室蘭北 RC：11月18日（火）夜間例会「親睦会（ボーリング大会）」 18：30～
場所：室蘭グランドボール
（ホテルサンルート室蘭集合後移動）
- 苫小牧 RC：11月14日（金）の例会を下記に変更します。
11月12日（水）第12グループ合同移動夜間例会 18：30点鐘
場所：天然温泉 なごみの湯（苫小牧市柳町2-7-6）

編集後記

多分本号が会員の手許に届く頃は既に地区大会を終え過去のものとなっている。執筆中の目下地区大会準備に忙殺されている。そこで地区大会の楽屋裏話を少々。準備立ち上げはかなり早かったが、その後停滞一向に進まず、目下足下に火が点いたような状況にある。今大会の特徴は2巨人?による講演である。RI会長のテーマに沿って、しからば北海道における壮大な夢をという標題のもと、寺島実郎氏にまず依頼をしたのが昨年の暮である。しかし氏は超多忙のため日程調整がなかなか決まらず快諾を得たのは今夏であった。

もう一つの企画はそれを受けて各界の論客をお願いし、それぞれの分野での具体的な将来像の展望をと論議して戴くというものであったが、話が中々まとまらず、ふっと湧いたように三浦雄一郎氏に登板願う事になった。両氏は全くカテゴリーの違う分野での活躍されている事は周知である。寺島氏には政治経済の面からの北海道の将来像を、また、三浦氏にはスポーツ文化と二側面から北海道に光を当てて戴くという事に落ち着いたわけである。願わくばお二方の講演が参加者全員に大いなる感銘を与える結果になるよう、心より念じている次第である。

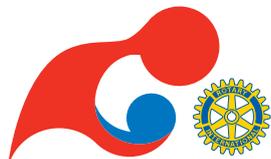
最近の地区大会運営には大会を成功させるべくプロの導入が見受けられる事が多いが、会員減少での資金的問題等があり、札幌西RC全会員による手作りの大会開催という事で、つまり素

人による運営のために多分随所でボロが出るのではないかとこの危惧があるわけだが、そこはロータリアン同志の友情と寛容の精神でご理解頂く次第である。

最近、ガバナー公式訪問に随伴する機会があった。僅か10クラブ弱ではあったが、大変興味深かった。ガバナー公式訪問は既に3分の2くらい迄進んでいる。今年は最近の傾向として数クラブを合同で行うのが通例のようだが、矢橋ガバナーは1クラブ、1クラブを丹念に訪問し、またDLPばりのガバナー補佐にクラブ協議会の全てを委譲するのを避け、会長・幹事懇談会、クラブ協議会、公式訪問例会の三点セットを丁寧に進めている。Face to Face が矢橋ガバナーの信条だ。よく最近側面で人口過疎地での小規模クラブでの活動停滞や毎週例会の実行が危ぶまれているとかの話を目にする事があるが、どうしてどうして規模の大小やバックグラウンドとしての地域の経済的疲弊にかかわらず大変よく運動を展開されているように感じた。また派手なパフォーマンスに欠ける事があれ、地域に密着した活動、ロータリー財団への協力等、ロータリーに寄せる心情に熱いものを感じ、今後の第2510地区のロータリー運動の未来に大いなる希望を改めて強く感じた次第である。（大金）

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com 執務時間: 10:00～17:00(土・日・祝祭日休み)

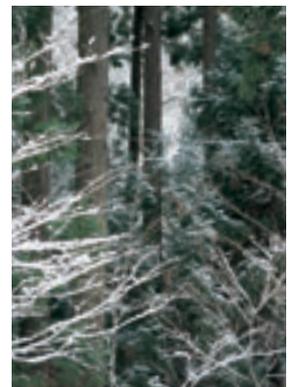


Make Dreams Real

夢をかたちに

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：初雪の円山
撮影：田宮哲夫 札幌西RC